

令和5年度 第1回 砂川市地域公共交通会議

日時：令和5年5月17日（水） 午後2時から

場所：砂川市役所 中会議室

出席者：

区 分	所属・役職	氏 名	備 考
会長 (1号委員)	砂川市 副市長	井 上 守	
3号委員	北海道空知総合振興局 地域政策課長	井 神 淳	同行 地域政策課地域政策係 主事 長田
4号委員	北海道中央バス(株) 滝川営業所長	村 山 滋	
	北星三星交通(株) 営業課長	荒 谷 節 生	
監事 (7号委員)	砂川市町内会連合会 副会長	高 村 雄 渾	
7号委員	砂川市老人クラブ連合会 会長	鈴 木 日出男	
8号委員	砂川市 総務部長	板 垣 喬 博	
	砂川市 保健福祉部長	安 田 貢	

欠席者：

副会長 (2号委員)	北海道運輸局札幌運輸支局 首席運輸企画専門官	經 亀 真 利	
4号委員	ふじ観光(株) 代表取締役	出 村 省 三	
5号委員	一般社団法人北海道バス協会 常務理事	今 武	
6号委員	北海道地方交通運輸産業労働組合 協議会 副議長	児 玉 成 治	
監事 (7号委員)	砂川市社会福祉協議会 副会長	岡 本 昌 昭	

事務局：

区 分	所属・役職	氏 名
事務局長	砂川市 市民部長	堀 田 一 茂
事務局次長	砂川市 市民生活課長	伊 藤 修 一
事務局	砂川市 市民生活課生活交通係長	松 平 斉 士
	砂川市 市民生活課生活交通係主任	長谷川 真理子

1. 開 会 (14:00)

事務局次長 全13名出席の報告 (欠席5名 同行者1名)

2. 挨拶

会 長：ただいまご紹介にあずかりました副市長の井上と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。先日の5月9日の臨時議会で5月11日付けということで副市長に選任されました。まずは本日はご多用の中、本年度の第1回砂川市地域公共交通会議にお集まりいただきましてありがとうございます。自己紹介もかねて、お話をさせていただきたいと思ひます。乗合タクシーの事業は平成27年10月から本格運行ということで、砂川市は開始してございますけれども、その前に2年ほどだったですかね、実証実験というかたちでやりました。その時には市民部ではなくて、総務部企画のほうでとり行っておりました。その時私総務部のほうで、政策調整課の財政係ということで隣の係にいたのですが、なかなか大変なもので、何とか運営にこぎつけたという懐かしい感じもしています。当時の開始は920件ほどの登録だったということでございますけれども、現在は1,700件ということで、非常に登録数が多い。それから昨年1年間では1万ちょっとの件数ですか、が利用されているということで、コロナ禍でありましてでもこの地域公共交通、非常に大事なものなんだなという思いがございます。ただ、まあその中ではタクシー業界ですとかバス業界ですとか公共事業ですか、営利事業の部分が多々ございますので、そういった部分の隙間を埋めるといった形で、民業の圧迫のないところで何とか事業を成功させようとしているところではございますけれども、市民ニーズもなかなか多岐ございまして、料金が500円がいいとか300円がいいとか、毎度町内会連合会さんのご要望でも300円に引き下げられないのか等色々議論されております。これを交通空白地にどんどん埋めれば埋めるほどですね、財政的にはなかなか経費がかかるというんですか、そこに費用対効果を求めるのか市民の満足度を高めるのかというのはなかなか難しい問題でございますけれども、地域公共交通は切っても切れないものでございますので、皆様のお力添えをなんとか良いほうにいただければと思ひます。昨日ニュースででしたか、千葉県柏で、私娘が柏市にいますけれども、それでちょっと二度見したというか、ふり返って見たというところで、無人のバスですかそういうのが走ると。交通のレベル4ですか、そういうところも行けるようになって、砂川市は行政面積も狭いですし、碁盤の目で市街地できているものですから、そういったものも取り入れればなんて思っております。昨年ですかDXの推進ということで、専任の部長をおきまして近隣ではいち早くDXの推進に取り組んでございます。その中で、スマホの普及ですとかマイナンバーの普及とかというのもやっているんですけども、高齢者のスマホ教室もやっておりますので、こういうものについては地域公共交通の申込ですとか、タクシー業界さんと協力しながら、私どもができることは何なのか、国の補助を使いながらできることは何なのか、今日は国の担当の方も欠席ということで大変残念ですけども、そういったことで使っていきたい。まず直線2.9kmの直線なので、変なところ曲がったり落ちたりという高低差もないでしょうから、そういうものも中央バスさん、バス路線も可能にしながらですねどういふことができるのかということを考えていきたいと思ひますし、今日は総務部の部長も保健福祉部の部長も同席してございますので、皆さんの忌憚のないご意見をいただければと思ひますので、発言いただければと思ひます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

3. 議 事

(1) 砂川市地域公共交通会議委員の変更について

→事務局より砂川市地域公共交通会議委員の変更について説明した。

(2) 令和4年度歳出予算の流用及び令和4年度仮決算について

→事務局より令和4年度歳出予算の流用について説明した。

【質疑応答】

なし

→承認

(3) 令和5年度砂川市地域公共交通会議予算（案）について

→事務局より令和5年度砂川市地域公共交通会議予算（案）について説明した。

【質疑応答】

なし

→承認

(4) 北海道運輸局における二次評価結果について

→事務局より資料1に基づき説明した。

会 長：運輸局の二次評価については、これは事業の実績報告というのは二年に一回でしたかね。二年分まとめて評価をいただくというようなシステムになっているようでして、3年度と4年度を一括でやったという形ですね。最初にお話ししたのが4年度分で、そのあとについているのが前の年の分ですね。これもタクシー業界さんと連携を図りながらやっている事業ですので大きくは変わってはいないというところではございますが、これらの評価結果について何かご質問、ご意見、確認しておきたいということがありますでしょうか。

事業の目的ですとかその通りなんだろうなということですので、なかなか意見は出しづらいところなのかと思いますけど。今日は運輸局の方が来られていないので、資料1っていうんですかね、今後新たな目標を設定するにあたっては持続可能な公共交通を維持する観点から収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することも検討していただきたいという運輸局の意見ですね。それを現実的にどういうふうな目標を設定したらいいのかというのは、なかなか市町村では難しくてですね。ちょっと私冒頭ご挨拶したときに中で、市民の皆さんの利便性というか両方かなえればかなえるほど収支率が悪くなる。走れば走るほど赤字になるというようなことだと思うんですよ。タクシーの料金が一定金額確保しているよりも非常に安い額で走っているので、そこは国の補助と市の補助で運営しなきゃならないという

ところがあるんです。その分岐点をどこに持ってきたらいいのだろうかというのは正直なかなか難しいという思いではあります。事務局さんのほうは定型的な文言で評価もされていますので、なかなか改善点というのは難しいかなと思います。ただその市民の方に周知をしていくっていうのは、開始当初からずっとやっておりますので、一定の評価も得られるところではあります。それでどうでしょう、何か苦情ですとか助かってるとかどんなお声があるか聞きたいのですけど。

【質疑応答】

A 委員：ずっと私申し上げているんですけども、なんとか運賃の関係で300円と500円の差ありますよね。どこかで線を引かなきゃならないのはわかるんですけども、利用者のほうからしたら、道1本挟んだだけで500円、300円となるんですね。公共交通なのでなんとか一律300円にならないかなという意見は結構出てますので、その点今後検討していただきたいと思います。それと後ですね、運行時間の関係なんですけど、行きの11時が中抜けしているんですよ。それも前回も何回かお話しているんですけど、運転手さんの食事の時間だとか取らなきゃならないのはわかるんですけど、不便を感じるというか。私も80歳になって免許証自主返納したんですよ。老人クラブの会議なんかでもよく80歳過ぎたら自主返納したほうがいいですよって話してるものですから、それを話しながら自らがしないのはなかなかという感じでね、自分もすぐやったんですよ。それで時間の不便感じるのは中抜けされてる時間があつたり、それと予約の仕方ですね。要するに予約は当日はだめです。当日予約がいいのは午後からの便だけですよということになっているんですね。ただいろいろ意見を聞きますと、新聞広告を見て今日安売りやってるから行きたいなと感じる時があるのでね、そういう時やっぴり予約当日もあると助かるなという意見結構あるんですよ。市のほうでも免許証の自主返納奨励しているということであれば、利便性だとか運賃だとかもう少し考えていただきたいなという感じです。今までずっと意見出しているんですけどなかなかそれが実現しない状況なので、今後の課題として検討していただきたいと思います。

会 長：当初からのご意見等ということで、検討はしているんでしょうけども、なかなか料金の改定に至っていないというのは、相当なハードルというのがあるんだろうなと思っています。ただその道路一本挟んで地域が500円から300円に区域が変わるというのはですね、一方でなかなか理解が難しいところなのかなと思うんですけど、そういうのをたとえばDXのシステムを使って、なだらかな距離と料金とですか、そういうので300円から500円の間を少し刻めるといふのがあれば、よろしいのかもしれないし、それはやはりタクシー業界さんとシステムの関係も色々やっていかないとならないでしょうし、そういったものを検討していかなければならない課題だと思っております。

A 委員：確かに市の色々補助も出さなきゃならない感じで、難しい感じもわかるんですけど、ただ私、利用者と300円にした時と500円にした時ちょっと計算やってもね、年間何百万もかかるんじゃないんですよ。それこそ何十万ですむ問題なんですよ。それで交通事故が少なくなったり、市民の利便性が上がるならどうなのかなっていう感じしてますけどね。できないものはできないでいいんですけどね、そういうことで検討していただきたい。

会 長：あのタクシー業界さんの運転手さんの充足度ってどんな感じなんですかね。

B 委員：運転手を募集してもなかなか。高齢化も進んでいるので。

会 長：なかなか乗務員の方は募集されても。最近コロナが明けて5類になったので、歓送迎会シーズンで行くんですけども、夜中のタクシーのつかまらないこと。これはやっぱりどこかで何かの支援がないと人繰りがなかなか難しいというのは当然増えてくるんでしょう。そういうものは業界さんも、人繰りというのは。

B 委員：考えてはいるんですけどね。

A 委員：やっぱりそういう状況を把握するためには思っていますので、1日だいたい1回は利用するようにしているんですよ。乗合タクシーね。運転手さんと話す機会があったりして、食事の関係もどうなんですか、ここで食事しないとそんな時間ないんですかって言ったらね、こんなこと言ったら運転手さんに悪いんですけどね、いやそんなことない、交代ですればなんともないよという話されるんですよ。そんなこともありますんで、何とか考えてやれば、中抜けしなくてもできるんじゃないかなという感じもしていますんで。やっぱり11時ってなにもないからって話も前にされてるんですよ。あまり影響ないんじゃないかって話しされてるんですけどね。二人でも三人でも利用する人が不便を感じるようであつたらちゃんとやっていくべきかなと思いますので。

会 長：はい、わかりました。他にどうでしょう、何か。よろしいですか。なければ、評価は評価として承認することによろしいでしょうか。

→承認

(5) 砂川市予約型乗合タクシー運行方針（案）について

→事務局より資料2に基づき説明した。

【質疑応答】

会 長：それでは、令和5年度の運行方針について説明いたしました。先ほどいろいろとご要望をいただいたのですが、令和5年度も同じ方針ということになりますけども、その辺を含めてご意見・ご質問あれば受け付けしますがどうでしょうか。よろしいですか。10月からの新しい方針ですね。年間通してですね、何か意見は常時受付けてございますので、先ほどA委員さんからのご指摘もずっと前から受け付けているというか、認識はしているんですけども、事務局のほうも交通の空白地というんですか、そのところの部分、昔はバス路線が晴見ですとか焼山ですとか、そういう所まで行っていたということもあっての、タクシー業界さんをお願いしながら乗合タクシーで補完をしたということもあってですね、やはりどこかでどうしても一定線を引かなきゃならないというのはあります。それをカチッと500円300円なのか、これからDXやそういうものを使って、システムを入れながらなだらかにしていくかというの、合わせて検討していきたいというふうに思っていますし、前段お話をさせ

ていただきましたけれども、バス業界さんとの新たな公共交通はどうなんだということも議論としてあろうかと思しますので、そういった意味で、今年はこの案としたいと思ってございますがよろしいでしょうか。この案で承認とさせていただきたいと思っております。これで議事は終わりでよろしいですね。

→承認

4. その他

○次回会議について

事務局：その他といたしまして、次回の会議についてご報告いたします。次回の会議については、本日説明しました運行方針案により、国庫補助の地域公共交通確保維持改善事業に係る生活交通確保維持改善計画の内容、令和4年度砂川市地域公共交通会議決算及び会計監査報告について協議させていただきたいと考えておりますが、本日説明しました運行方針案により、昨年度と大きな変更箇所がないため、同様の計画となります。今後北海道運輸局と協議していく中で大きな変更がなければ、この場を持たず、書面会議にて替えさせていただきたいと考えております。なお、大きな変更があれば、招集してこの場を持ちたいと考えております。こちらからは以上です。

会 長：分かりました。であれば、まずは運輸局さんの答えを待つということでもよろしいですね。事務局のほうで持ち合わせた議案については以上でございます。ここで終わるんですけど、せっかくの機会といいますか、振興局さんも来られていますしね、バス路線の広域的な何かがあればですね。広域圏組合のほうでもしくは5町のほうで話をしているんですけども、中空知で5市5町よりはずれたところがもちろんあってですね、美唄さんだとか深川だとかもあってですね、それぞれ中空知の北側の部分と中空知の南側の部分と、砂川は美唄から滝川まで行くのでいろいろ問題抱えていまして、いつも中央バスさんとは協議させていただいているところなんですよ。いろんなアンケートですとか、ビンゴカードみたいなものを作って乗降の件数を洗い出して、実際誰がどこで降りてるんだとか、財政サイドも我々予算をやりながら、もう始発から終点まで乗ってみるかとか言っているんですけど、なかなかその実態がつかめてこない。それで総論は賛成なんですけど、各論になるとやっぱり補助金がどうかってなってくるものですから、そういった部分も含めてどんなことが、決着のしどころといいますか。

振興局：地域の交通って話でいくと、各自治体が空知管内24市町あって、それぞれ細かく意思決定されて、それぞれで格差もあってとにかく効率的に需要のある所だけ残していくっていう考え方の自治体さんもあれば、一方でどんなに赤字になっても町がお金を入れて維持していくんだというご意見もあります。広域になるとですね、それぞれの自治体さんでお金を折半しながら補助してもらいたいなことをやっていかないといけない。一方で事業者さんのほうも、今本当に運転手さんがいない。どんどん減っていった採算とれるところでも便数減らしていると聞いています。なので、どこを残していくのかみたいなことを地域と事業者さんとみんなで話し合いながらやっていかなきゃならない。一方で、我々広域の交通を考えた時に、アンケートとらせていただいて、やっぱり皆さんですねあったほうがいいのかというと当然あったほうが良いと

答えるんですよ。でも実際乗るかっていうとひょっとすると年に1回かもしれないし、半年に1回かもしれないし。となると商売としては成り立たないので、じゃあ各市町で我々もそうですけど広域維持していくとなるんですけど、先ほど収支がどうかって話がありましたけど、どこまでやっていけばいいのかっていう話になるんですよ。なったときにどこを捨ててどこを活かしていくかっていうことは、やっぱりこういった場でご意見をいただきながらやっていかなきゃならないですね。広域の関係についても中空知の中で各市町の首長さんが集まってどういう風に維持していくのか、話し合っていこうかという話も聞いております。なので皆さんで話し合っていきながら適切なサイズのサービスを作っていく。そういう方向になっていきます。先ほど副市長さんがおっしゃるように自動運転などですね、ひょっとするとコロナでなくなりますけど、ライドシェアみたいな相乗りみたいなものをみんな考えていかなきゃならない。運転手さんいないわけですから。もうけるところ、維持できるところ、あとでやっていただく。それで皆さんの足を守るために最低限みんな守っていくということをやっていくということになっていくと思います。

会 長：バスの問題はですね、広域圏と財政サイドのはざまにあるんですね。本当に総論は賛成なんですけど、各論は難しい話になってくるんですね。議会の話をしますと、一般質問の中でですね各市町から人を集めるためにバスを使ったらいいんじゃないかとか、砂川市立病院にわんさと人が来るっていう想定のもと、近隣の町にバスを走らせてそこに迎えに行けばいいんじゃないか。そうすると、その病院の経営が成り立っていくかどうかというところなのに、その病院の前までお客さんっていうんですか、患者さんを連れに行くことが果たして本当にいいのかどうかというところなんですね。だから私共の市立病院に来たいっていう人たちの気持ちを成就するために、芦別から来るのがいいのか、また赤平も新しく病院を整備してございますし、芦別もやらなきゃならない、そういうのはどうなんだというのがありますよね。あと JR の問題は芦別以降はぶつと新得で、あそこまで切れてますでしょう。それをどうするんだっていう。あの中央バスさんからいつも補助申請を来ているんですけど。

中央バス：私もまだ来てから一カ月くらいしかたっていないんですけど、他の地域でも自治体さんによっては温度差があってですね、それぞれの複数の市町村をまたがる広域の路線であれば、調整の取れているところはきちんと按分比率も関係自治体さんと話し合っただけで対応してもらって、国の補助制度が当たるところはいいんですけど、条件が外れて自治体さんが負担しなきゃいけないところはちゃんと話をしてもらって対応していただいているんで、それを維持できるんですけども、なかなかいつも苦勞するのがすぐにまとまらないっていうところが。乗務員についてもやっぱり人がいない中で、何が魅力かというところとできるだけ労働改善が今は改善してほしいっていうのがあって。あとは車両の更新ですね。あれもなかなかできてなくて難しい。本当に大丈夫かっていう心配なところもあるんですけど、できるだけ外装だとか内装も点検しながらやってはいるんですが、整備員も足りなくて、あちこちで人が足りないっていうのはあるんですね。じゃあどういう風にしてそういう人たちを雇用して、採用していくかってなると、事業者だけではちょっとできないので、ハローワークだとか、この間ほかの自治体さんと協議したときに出てきたんですけども、ハローワークさんに応募してくる人と事業者で求人してるところとマッチングをしてもらって、うまくつなげてもらって採用に結び付けるだとか、地域と連携してやっていかないとなかなか難しいのかなっていう話はしていました。

会 長：ライドシェアって話がさっきちょっとでましたけど、石山中学校と砂中が統合しまして、石山中学校の滝川地区の子どもたちをスクールバスを運行して、3台なんですけど、3台運行して、3台買って2千何百万して運行経費も何千万もかかっているんですね。そのところをどう、国道12号線を走るんですとか東側をちょっと走るんですとかというところなんですけど、中央バスさんのバス停を少しお借りしたりとか協議を進めてないんですね。実証の部分と、とにかく中学校との統合でやってましたので、今度空知太小学校と北光小学校と中央小学校も統合して、それも全部スクールバスで送ってくるので、もしかしたら昔は学生がバスに乗っていたよねとか、自前で回すとさらに人をくっちゃうということもあるので、朝の段階時間帯では小学生も少し乗ったりとか、お昼の時間帯は低床バスにして病院に行くとかそういうのも、どうやってどういう風に調整したらいいのかっていうのはなかなか出てこない。冬は除雪の問題があって、スクールバスの運行路線の除雪だけでも今までの除雪費の倍くらいかかるんですね。そのバスを運行させるために広く除雪しなきゃならないんで。だからもっともっと目に見えない、それこそ運転手さんの問題もありますし、バスも乗合タクシー27年に買いましたが、それが8年たっているんで、更新は何年にしなきゃならないのかと思っていたり、非常に悩ましいところが多いんで。当市の公共交通は過去には学童保育の送迎をするのに、タクシーの業界にお願いして、学童保育の人たちを学校から学童保育所までタクシーで送迎してたんですね。そういうのは平成16年、17年でしたかね。

保健福祉部長：16年度からもうやってました。

会 長：当時担当の係長でいまして、非常にあの地域公共交通に造詣が深いってわけじゃないんですけど、やってましたんで、どんなふうな考えもありますでしょうかね。

保健福祉部長：やはり、移動しなければならないっていうときに、どうしてもタクシーなりバスなりっていう公共交通にお願いせざるを得ないというケースは。例えば今、ワクチンを接種する中でですねふれあいセンターで集団接種を行なって、地域公共交通を利用してふれあいセンターで降りてですね、接種されているご高齢の方もいらっしゃると思いますし、ふれあいセンターという会場からいけば、なかなか直接タクシーでお見えになる方やバスをご利用の方もいらっしゃるんですけど、やはりそれぞれの路線でですね一定のニーズに応じていただくことが行政にとっても極めて重要であるとは思っているところです。

会 長：あの、学童保育の送迎にタクシーを使うっていうのは、最初はお母さん方に反対されるかと思ったんですけど、ドライバーがプロなんで安心して言われるんですね。当時高かったですよね料金1万円でしたかね。

保健福祉部長：月額保育料1万円の中でタクシー代込みということでありましたので、実情1キロ2キロない中で、月々数千円の経費が移動費に利用していたと。保護者の方々には本当にご理解いただいてご利用いただいたという過去の経過です。

会 長：そういった意味で小さなまちですけど、何とかそういうところを隙間をうめながら公共交通をやってきておりますので、さきほど鈴木会長さんから言われた課題としてあるにせよですね、実際にいろいろな人材不足の関係で、実際に本当にドライバーさんがおられなくて走られない

ということが出てきますと、それはもう立ちいかなくなりますので、何とかそういったものを事前に解消するように施策をうってですね、何とか進めたいと思いますし、広域的なものについては私よりも市長さんのほうでは施策的にやっていくのに非常に何とかせよという指示はあるんですが、もうちょっとぶち当たるものが大きくてですね、また振興局さんにもお世話になることがあると思うのですがよろしく願いいたします。

なんか初めての会議だったのでいろいろ、もうなかなか出てくるのが難しい問題ですね、あの答えは出ないのですが、本年度の会議はこれでいったん終了させていただきまして、また何か難しい問題が出てきたらですね、それぞれ連絡とりながらですね、書面会議によらず、また対面の会議を開きたいと思いますのでよろしく願いいたします。じゃあしめてよろしいでしょうか。それでは以上を持ちまして令和5年度第1回の砂川市地域公共交通会議を閉会いたします。どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。

5. 閉 会 (14 : 56)